

# 韓国留学



## 2010年1月



今年の1月は、日本も例年より多く雪が降ったそうですが、韓国でも **103年ぶりの大雪** となり、普通なら2日で溶ける雪も、2週間ほど積もったままの状態が続きました

祥明(サンミョン)大校は12月の上旬で学校が終わり、冬休みを迎えたので、私は大学校内の寮を出て、韓国人の友人である「イ・ガヨンさん」のご家族の家に泊まり、残り約3ヵ月の留学生活を送らせて頂きました。また、**韓国のお正月**も体験させて頂きました。

写真は、祥明(サンミョン)大校・日本語文学科のガヨンの家で1月上旬に撮ったものです。

## 2月 韓国のお正月



韓国のお正月は**ソルラル (설날)** と言い、**旧暦**でお祝いします。私は韓国人の友人の「ガヨン」の家でお正月を迎えたのですが、韓国は元旦の一月一日だけが休日となり、大晦日の日はカウントダウンをする程度で簡単に迎えます。その後、一月二日からは祝日とはなりません。

**今年は、旧暦での元旦が2月14日**で、ホワイトデーと同じ日にちでした。また、14日の前後の13日と15日も休みとなり、韓国では3日間が正月休みとなりました。そのため、2月半ばは帰省ラッシュで込み合いました。

# 韓国のお正月



「トックッ(떡국)」に入れるため、棒状のお餅をスライスしている写真

## 韓国のお雑煮?! 떡국(トックッ)

牛肉で出しを取った白っぽい汁に、「お餅 = 떡 (トッ)」をたくさん入れたもので、韓国では、お正月に必ず食べる料理です。

この時の「餅(떡 (トッ))」は、切り餅ではなく、長寿の願いを込めた長い棒状の餅を、斜め切りのスライスにして入れます。

韓国では、通常数え年で年齢を数えるので、新年になると自動的に年をとりますが、トックッを食べないと年は取らないとされているそうです。

## 韓国のお正月の過ごし方は？

① 子ども達は、無病息災を願う「セットンチョゴリ」という『韓服』に着替える。

② チャレ(차례/茶禮)

先祖に「큰절(クンジョル)」と呼ばれる深い礼を行うもので、家の中に茶礼膳(チャレサン)を準備して、その上に果物や魚、肉などを置き、男性だけが、この「큰절(クンジョル)」を行う。

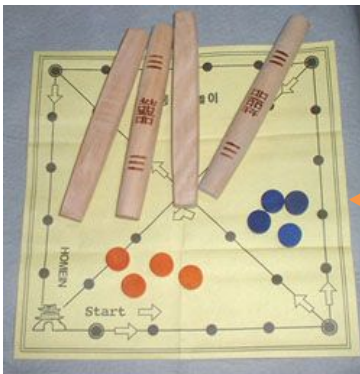
③ セベ(세배)

子どもたちが大人に向かって、新年の挨拶として「큰절(クンジョル)」をするもの。セベ(세배)が終わった後は、大人たちが子ども達にセベトン(세뱃돈)と呼ばれるお年玉を渡す。

④ 食事

※トックッ(떡국)と呼ばれる韓国版のお雑煮を必ず食べる！

親戚の女性が集まって、前日から今日にかけて準備した料理を皆で食べる。



## ユンノリ(윷놀이)

韓国の伝統的な遊びで、主に正月にこのユンノリ(윷놀이)をして遊びます。

※日本でいうスゴロクの様なもの。

# 2泊3日～韓国・慶州旅行～

韓国の京都

## 慶州(キョンジュ) 慶州(キョンジュ)

慶州(キョンジュ)は、ソウルから車で約3時間ほど南に行った場所にある都市で、新羅王朝時代の都として栄えました。

そのため、慶州には、世界遺産である仏国寺(ブルグクサ)や、石窟庵(ソックラム)を始め、新羅王朝の多くの歴史的文化遺産が残っていることで有名な観光地です。



## 仏国寺(ブルグクサ)



## 多宝塔(タボタブ)

仏国寺の中には、高さ 10.4mの多宝塔(タボタブ)と呼ばれる塔があり、この塔は、韓国の小銭である『10 ウォン』にも描かれています。

そのため、仏国寺を訪れた際には、必ず、10 ウォンと一緒に『多宝塔(タボタブ)』を撮る！と決めて撮った写真が、左のものです。

## 瞻星台 (チョムソンデ)



左の写真は、新羅初の女王『善徳女王(ソンドク ヨウァン)』によって建てられた、天文台で、夜に撮影したのでライトアップされています。

この瞻星台(チョムソンデ)は、東洋で最も古い天文台と言われています。また、大人気ドラマ『善徳女王』にも、この天文台が放送されました。

左下写真は、そのドラマの撮影地が慶州で行われたことを指すものです。



## ソウルの新名所

# 光化門広場(カンファムンクァンジャン)



2009年8月に、ソウルの新名所として「光化門広場」が誕生しました!!!

韓国の古宮「景福宮(キョンボックン)」の正門である「光化門(カンファムン)」から、市庁方面へ向かって、幅約35メートル、長さ約560メートルの広大な広場が建設されました。この広場は、今まで16車線だった道路のうち、中央6車線を廃止して、その空間に作られたので、まさに道路の真ん中に巨大な広場が出現します。また、朝鮮時代の首都「漢城(ハニャン)」の中心道路であった世宗路を復元させようと建設したようです。

この光化門広場には、ハングル文字を開発した「世宗大王(セジョン デウァン)※写真左」や、李舜臣(イ・スンシン)の銅像があり、この広大な広場では噴水や花畑、また冬にはスケートや、イルミネーションを楽しむことができ、様々な顔を見せてくれ、オススメです。

左写真は、世宗大王の像の手前で、無料で貸し出しされていた衣装を着て、友人と撮ったものです。

また、私はクリスマスに、光化門広場を訪れましたが、右写真のようなイルミネーションがたくさん施してあり、その上、雪も降ったので、思い出に残るホワイトクリスマスとなりました。



私は、去年の3月に、祥明(サンミョン)大學校を訪れましたが、その時、一人で留学することへの不安よりも、これからスタートする留学生活への期待で溢れていたことを、昨日のように鮮明に覚えています。そしてその期待を裏切ることなく、今日まで楽しい留学生活を送れたのも、多くの人々の支えがあってこそでした。そのため、私がこの一年間の留学生活を通して最も感じたことは、人に恵まれたということです。私が助けを必要とする時は必ず、私を支えてくれる人達が側にいて、私が嬉しい時には、自分のことのように喜んでくれる人が周りにいてくれたことに、改めて感謝します。

上の写真は、私が日本語文学科の教授の中で、最もお世話になった、ヤン先生と撮った写真です。ヤン先生は、私に一年間、携帯電話を貸して下さったり、留学生活の相談に乗って下さったり、奨学金の手続きをして下さったり、私がよりよい留学生活を送れるよう、非常に尽くして下さいました。また、授業では、萩原朔太郎の作品を多く取り上げられ、色や音からイメージを見出すことのできる詩の世界というものの魅力について教わりました。さらに、ヤン先生の授業では、熊本や日本について、私が受け答えする場を設けて頂き、地元である熊本についてさえも、無知である自分に気づかせて頂きました。そのため、帰国したら、もっと多くの日本の観光地を巡って、日本の誇れる所や、熊本の魅力について知らなければならぬと強く感じる事ができ、勉強になりました。

そして、ヤン先生の他に、日本語文学科のイ・ガヨンさんのご家族に特に感謝しています。ガヨンのご家族とは、私が留学する前に一度、ホームステイをさせて頂いたので、以前から交流がありました。しかし、私が留学生として韓国を初めて訪れた日、私の分の布団やお皿、お箸などの生活必需品を準備して寮まで持ってきて下さったり、一緒に食事をして下さるなど、とても温かく歓迎して下さい、感激したのを覚えています。また、夏休みと冬休みの間、(ホームステイではなく、ご好意で)ガヨンのご家族の家に泊まらせて頂いた時も、私を心から家族の一員として迎えて下さったので、私自身も韓国での第二の家族としてガヨンのご家族と接することが出来ました。おかげで、韓国の御盆やお正月も一緒に迎えることができ、他の留学生がなかなか出来ない貴重な経験もさせて頂きました。

このように、ガヨンのご家族やヤン先生を始め、韓国で出会った友人や先生方の助けを借りてこそ、なし得た留学なので、私を温かく迎えて下さった韓国の全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして何より、私の留学を認めてくれた両親や、応援してくれた方々に、心から「ありがとう」と伝えたいです。この留学を通して、さらに近い存在に感じることでできた韓国や世界の人々と、これからもたくさん交流していきたいです！